

総合診療科（4）

私は初期研修の2年間を当院で行い、内科研修の多くを当科で行いました。後期研修に進むにあたり、広く内科全般の研修を行う必要性を感じたため引き続き当科で後期研修を行っています。

当科の診療の特徴は700床規模の大病院における病院総合医として、また他の専門内科と連携しながら内科のひとつとして機能していることです。取り扱っている疾患は多様性に富んでおり、commonなものからrareなものまで幅広く経験することができます。当科の一部スタッフが感染症内科として診療していることもあり、入院患者では感染症診療を経験する機会が多いです。近年はリウマチ・膠原病症例を外来に限らず入院でも診療する機会が増えています。さらに超高齢化社会を背景に多疾患合併症例や病態不明症例も多く、老年医学や内科診断学も学ぶことができます。

入院診療は2チームで行っており後期研修医はいずれかのチームに所属し5-10名程度の患者の主治医としての役割を果たします。学年が上がるにつれてチームの全患者および診療科全体をも把握することでチームマネジメント力を発揮します。また外来診療は内科初診外来および定期の総合診療科外来を担当します。さらに他科からのコンサルト対応や急変対応チーム、栄養サポートチームなど横断的な分野にも積極的に関わっています。

教育については毎日の回診はもちろん、お昼に新入院カンファレンスを行い、後期研修医は司会として病歴と身体所見を重視した議論をもとに初期研修医への教育を行っています。また余った時間を入院患者のレビューにあてることで2チーム間でお互いの患者の問題点を共有しています。また他の多くの院内外の教育カンファレンスにも後期研修医は主体的に関わります。初期研修医を対象とした症例検討会の司会や他施設と合同で行っているGIMカンファレンスへの定期的発表など“教えることは学ぶこと”を実践する機会が多くあります。

最後に研究については日々の診療をもとに経験した症例を内科地方会やプライマリケア、感染症・膠原病領域などでの学会で発表し、論文投稿も積極的に行っています。当院には学術支援センターが併設されており学会発表時のポスター作製や臨床研究の遂行にあたってバックアップを受けることができるのは大変魅力的です。

後期研修が始まって早くも1年半が経ちまだまだ未熟な点が多いですが、日々内科医として、総合医として日々充実した研修を行わせて頂いています。皆さんも是非当科の後期研修でお互いに切磋琢磨しませんか？興味を持たれた方は一度見学に来てください。